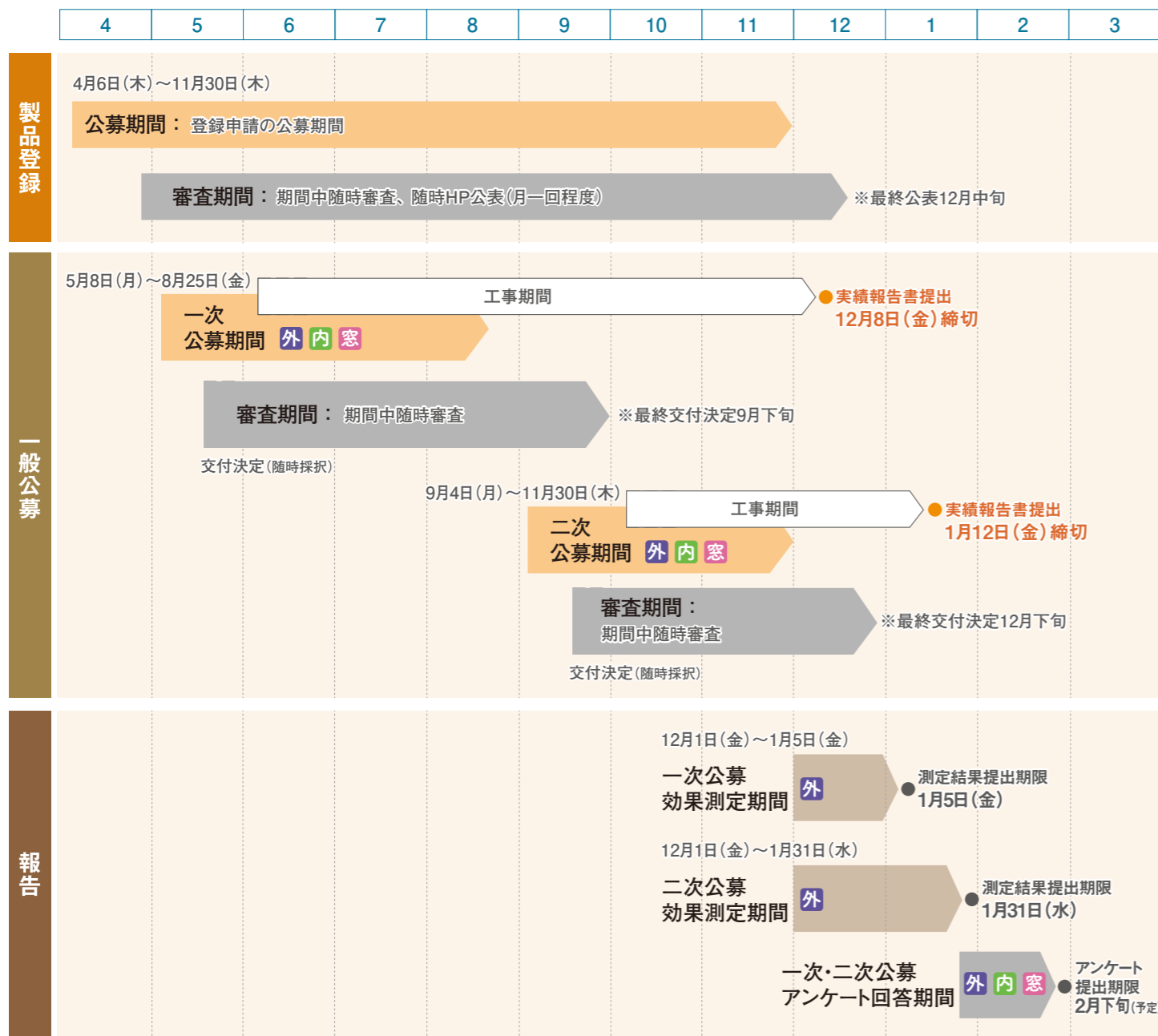


スケジュールと申請の流れ



●スケジュールは変更となることがあります。必ずSIIホームページの補助事業における公募情報にて、最新の公募期間をご確認ください。



この事業に関する問い合わせは

https://sii.or.jp/meti_material05/

詳しくは上記ホームページより「公募要領」「申請の手引き」をダウンロードし、ご確認ください。

TEL **03-5565-3110** 【受付時間】平日10:00～17:00
(通話料がかかりますのでご注意ください)

補助金申請において、虚偽の申請・不正受給などの不正行為に対して、SIIは厳正に対処いたします。申請される皆さまは十分ご注意ください。よろしくお願いいたします。

問い合わせ先/申請書提出先

一般社団法人 **環境共創イニシアチブ**
Sustainable open Innovation Initiative

一般社団法人 環境共創イニシアチブ 事業第2部
〒104-0061 東京都中央区銀座2-16-7 恒産第3ビル

<https://sii.or.jp/>

令和5年度 経済産業省による 次世代省エネ建材の実証支援事業 のご紹介

外 張り断熱がおすすめ!

内 張り断熱がおすすめ!

窓 断熱がおすすめ!

小さい子供がいるので、
家全体をしっかり断熱改修して、
長く快適に過ごしたい

一日の大半を過ごす
リビングを中心に
改修したい

冷暖房効果を高めて、
冬は暖かく
夏は涼しく過ごしたい

本事業では、
ライフスタイルに合わせた
申請をすることが可能です

事業の目的

既存住宅において、省エネ改修の促進が期待される工期短縮可能な高性能断熱材や、快適性向上にも資する蓄熱・調湿材等の次世代省エネ建材の効果の実証を支援するものです。

2023年スケジュール

一次公募期間

5月8日(月)から 8月25日(金)

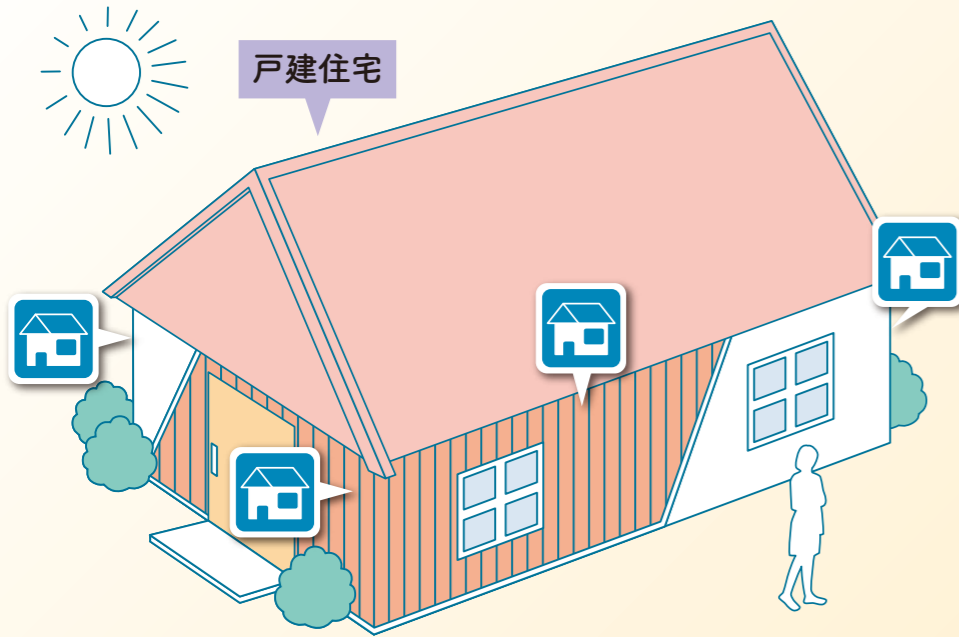
二次公募期間

9月4日(月)から 11月30日(木)

令和5年度 次世代省エネ建材の実証支援事業では、住宅の改修方法を3つの区分から選ぶことができます。

外 外張り断熱（外断）

外張り断熱工法等で住宅の外壁等を改修する方法

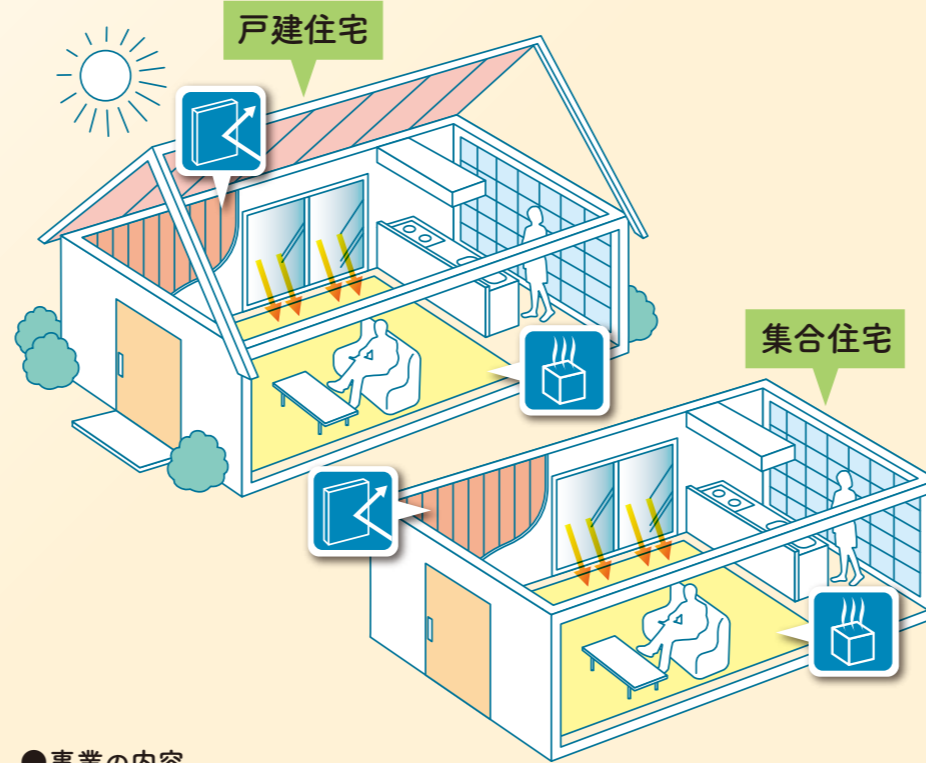


●事業の内容

要件のポイント	補助金額
外気に接する外壁全てを外張り断熱工法等で改修すること	<ul style="list-style-type: none"> 補助率 補助対象経費の1/2 以内 補助金の上限額 1～4地域：400 万円/戸 5～8地域：300 万円/戸
必須製品	
断熱材(外壁)	
任意製品	
断熱材(天井/床) 窓 玄関ドア 断熱パネル 潜熱蓄熱建材 調湿建材 高効率換気システム	<p>住宅区分</p> <p>戸建住宅</p> <p> 必ず導入することが要件です(必須製品)</p> <p> 必須製品と同時に改修することで補助対象となります(任意製品)</p>

内 内張り断熱(内断)

室内側から断熱パネルや潜熱蓄熱建材等を用いて改修する方法

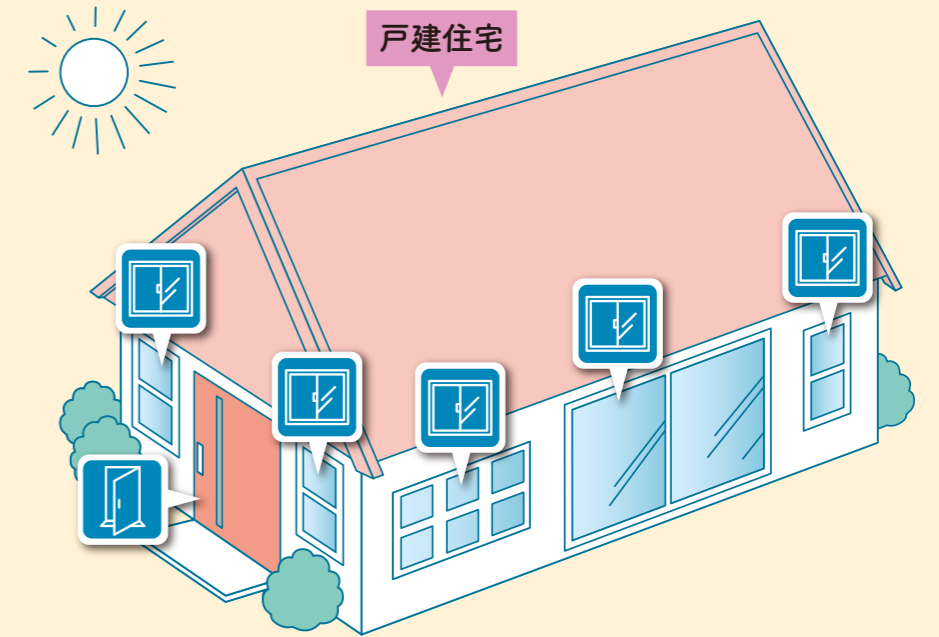


●事業の内容

要件のポイント	補助金額
断熱パネル、潜熱蓄熱建材いずれかを室内側から導入し改修すること	<ul style="list-style-type: none"> 補助率 補助対象経費の1/2 以内 補助金の上限額 戸建：200 万円/戸 集合：125 万円/戸 補助金の下限額 戸建・集合とも：20 万円/戸
必須製品	
断熱パネル 潜熱蓄熱建材 ※本事業に登録されている製品	
任意製品	
断熱材 窓(防火・防風・防犯) 防災ガラス窓 玄関ドア 調湿建材 ※本事業に登録されている製品	<p>住宅区分</p> <p>戸建住宅・集合住宅</p> <p> いずれかの製品を導入することが要件です(必須製品)</p> <p> 必須製品と同時に改修することで補助対象となります(任意製品)</p>

窓 窓断熱(窓断)

全ての開口部を窓及び玄関ドアを用いて改修する方法



●事業の内容

要件のポイント	補助金額
全ての開口部を窓(防火・防風・防犯仕様)及び玄関ドアを用いて改修すること	<ul style="list-style-type: none"> 補助率 補助対象経費の1/2 以内 補助金の上限額 150 万円/戸 ※窓(防火・防風・防犯)・玄関ドアと任意製品を併用して改修する場合は200万円/戸
必須製品	
窓(防火・防風・防犯) 玄関ドア ※本事業に登録されている製品	
任意製品	
断熱パネル 潜熱蓄熱建材 断熱材 防災ガラス窓 調湿建材 ※本事業に登録されている製品	<p>住宅区分</p> <p>戸建住宅</p> <p> 必ず導入することが要件です(必須製品)</p> <p> 必須製品と同時に改修することで補助対象となります(任意製品)</p>